

I 環境科学研究科の活動の概要

環境科学研究科の平成元年度活動

石塚皓造*

1. 研究科の運営

(1) 運営方針

本研究科は設立以来10余年学生定員が大きいにも拘らず1専攻を維持し、広い分野にわたる学際的カリキュラムを提供して環境科学全般にわたる問題把握能力の涵養に努めてきた。一方併せて専門分野について高度の問題解決能力を養成する為専門基礎学力の充実をはかってきた。近時地球規模の環境問題などが大きな社会的関心を呼び起しているが、その様な問題に対応するにも本研究科のように自然、社会、人文の科学を総括的に含む教育体制は効果的な結果を産み出す素地となっている。本年度は、特に学際性の高揚、高度科学者の養成組織の確立、社会人受け入れ制度の再検討などを中心とし従来の方針を踏襲して運営することとした。

(2) 運営組織

研究科教員会議を以って運営組織の基本とする。研究科長を議長とし、本研究科の授業を担当する講師以上の教員の中教員会議構成員と認められた教員により組織される(表-1)。53名であった。毎月1回開催し(8月を除く)、この他入学試験の合否判定の為の臨時会議を10月および2月に開催した。

教員会議とは別に、研究科長を議長とする教授間協議会を原則として毎月1回開催した。この会には教員会議構成員ではないが研究指導または授業担当により研究科と関係のある教授も参加した。

(3) 研究科内各種委員会

教員会議の中に各種委員会を設置し、運営業務の分担、新業務の開拓を行った。

カリキュラム委員会(表-2)はカリキュラム時間割の作成からはじまり、カリキュラムの改廃、新入生ガイダンス、中間発表会(3回)の設定、修論発表会や公開講座の世話、修論指導教官決定作業など多彩な活動を行ったが、とりわけ本年度は、環境科学特講2単位分を利用して地球規模環境問題を多面的に講義することを組織した。(資料1)

入試委員会(表-3)は先年入試方法の改革を行い、引続きその結果の良し悪しを検討した。特に新入生の修論研究テーマの決定に及ぼす影響に注目した。入試募集要項に修論研究指導可能課題一覧を付し、それに対応して受験生に志望調書を作成させる様に取りはからった。

社会人教育制度検討委員会(表-4)では社会人の受け入れに対する研究科の基本姿勢を討議し、制度として対応することを検討した。先ず人事院による行政官派遣制度の中に環境科学コースを新設し、国家公務員を本研究科に派遣する制度を設けることを働きかけた。各省庁・外局の人事担当者と接触し、現在人事院から概算要求を提出する段階となっている。社会人を広く受け入れる為、

*平成元年度研究科長

表-1 研究科教員会議構成員

	氏名	所属学系		氏名	所属学系
教授	石塚皓造	応用生物化学系	助教授	小泉允園	社会工学系
教授	岩城英夫	生物化学系	助教授	国府田悦男	応用生物化学系
教授	大羽裕	応用生物化学系	助教授	佐藤俊	歴史・人類学系
教授	梶秀樹	社会工学系	助教授	佐藤洋平	社会工学系
教授	川手昭二	社会工学系	助教授	下藤信弘	社会医学系
教授	河村武	地球科学系	助教授	田島學	社会工学系
教授	黒川洸	社会工学系	助教授	田中秀夫	応用生物化学系
教授	河野博忠	社会工学系	助教授	手塚敬裕	化学系
教授	古藤一雄	地球科学系	助教授	東照雄	応用生物化学系
教授	高野健三	生物科学系	助教授	日端康雄	社会工学系
教授	多田敦	農林工学系	助教授	前川孝昭	農林工学系
教授	谷村秀彦	社会工学系	助教授	前田修	生物科学系
教授	中原忠篤	応用生物化学系	助教授	松本栄次	地球科学系
教授	中村以正	応用生物化学系	助教授	森下豊昭	応用生物化学系
教授	藤井宏一	生物科学系	助教授	安田八十五	社会工学系
教授	藤伊正哉	生物科学系	講師	甲斐憲次	地球科学系
教授	山口誠哉	社会医学系	講師	小林守人	地球科学系
助教授	安仁屋政武	地球科学系	講師	齊木崇人	社会工学系
助教授	天田高白	農林工学系	講師	齊藤隆史	生物科学系
助教授	石田東生	社会工学系	講師	佐久間泰一	農林工学系
助教授	石見利勝	社会工学系	講師	関李紀	化学系
助教授	糸賀黎	農林学系	講師	田瀬則雄	地球科学系
助教授	岩崎駿介	社会工学系	講師	中村徹	農林学系
助教授	臼井健二	応用生物化学系	講師	久島繁	応用生物化学系
助教授	鶴野公郎	社会工学系	講師	松本宏	応用生物化学系
助教授	及川武久	生物科学系	講師	吉川博也	社会工学系
助教授	北畠能房	社会工学系			

(議長 石塚皓造)

1年修了の他入試における特別配慮など検討した。

博士課程設立検討委員会(表-5)では、本研究科の後継者養成のためのみではなく、環境科学をより深く究めるため博士課程の設立を検討した。本学における大学院制度の特殊性のため、当面は博士課程の中に環境研究学際カリキュラムを設置して環境科学専門の博士課程とすることが至当と判断し、博士課程の中に検討委員会をつくる様働きかけ、その中心メンバーとなった。

編集委員会(表-6)は年報作成の他研究科要覧を新しいレイアウトで作り、又入試募集用のポスターの装いを新たに作成した。

就職委員会(表-7)は近時求人活動が激しくなっているので院生の就職は良好となっているが、新しい分野の開拓を行った。

教育指導体制委員会(表-8)広領域カリキュラム複数教官指導制の設置を提案し、水環境と都市環境の2テーマを実行することとした。

視覚教育整備委員会(表-9)は教育機器の整備, ビデオライブラリーの充実を検討した。

以上の諸委員会の他に, 運営委員会(表-10)と6分野の分野世話人(表-11)を運営の要の1つとした。

また, 研究科長代理として河村武教授, 修士課程委員会委員として中村以正教授, 入試実施委員として河野博忠教授が担当した。

表-2 カリキュラム委員会

委員長	多田敦
委員	甲斐謙次
〃	藤井宏一
〃	下條信弘
〃	安田八十五
〃	天田高白

表-3 入試委員会

委員長	前田修
委員	安仁屋政武
〃	河野博忠
〃	石塚皓造
〃	藤井宏一
〃	黒川洸

表-4 社会人教育制度検討委員会

委員長	河野博忠
委員	河村武
〃	藤井宏一
〃	森下豊昭
〃	下條信弘
〃	吉川博也
〃	天田高白
〃	小泉允圀

表-5 博士課程設立検討委員会

委員長	岩城英夫
委員	河村武
〃	大羽裕
〃	中村以正
〃	河野博忠
〃	谷村秀彦

表-6 編集委員会

委員長	黒川洸
委員	小林守三
〃	高野健二
〃	白井健二
〃	下條信弘
〃	北嶋能房
〃	齊木崇人

表-7 就職委員会

委員長	古藤田一雄
委員	松本栄次
〃	岩城英夫
〃	森下豊昭
〃	中村以正
〃	佐藤俊
〃	石田東生

表-8 教育指導体制委員会

委員長	藤井宏一
委員	安仁屋政武
〃	田瀬則雄
〃	前田修
〃	大羽裕
〃	中村以正
〃	河野博忠
〃	黒川洸

表-9 視覚教育整備委員会

委員長	田島学
委員	及川武久
〃	田瀬則雄
〃	前川孝昭

表-10 運営委員会

委員長	石塚皓造
委員(会計)	田瀬則雄
〃	及川武久
〃	東照雄
〃	下條信弘
〃	安田八十五
〃	佐藤洋平

表-11 分野世話人

自然環境	河村	武
生物環境	岩城	英夫
生産環境	大羽	裕
環境改善	中村	以正
政策分野	河野	博忠
計画分野	黒川	洸

資料 1

環境科学研究科特別講義

「地球環境をめぐる諸問題」

*日時 10月11日から12月20日までの10月18日を除く水曜日 4, 5 時限
(ただし, 第 9 回は12月12日火曜日の 4, 5 時限)

*場所 理科系修士棟 C103講義室

*内容

テ	ー	マ	担当者	月 日
1.	大気環境		河村 武	10月11日
2.	海洋環境 (地球温暖化とのかかわり)		高野 健三	10月25日
3.	水文環境 (降雨と乾湿)		古藤田一雄	11月 1日
4.	二酸化炭素と陸上生態系		及川 武久	11月 8日
5.	熱帯雨林の破壊と地球環境		熊崎 實	11月15日
6.	環境化学物質による地球環境の汚染		白井 健二	11月22日
7.	酸性雨と土壤環境		大羽 裕	11月29日
8.	地球規模の環境経済		北畠 能房	12月 6日
9.	国連「国際防災の10年」の動き		梶 秀樹	12月12日
10.	総合討論		安田八十五	12月20日

2. 教職員の異動

平成2年3月31日付にて山口誠哉教授、川手昭二教授が定年退官、鶴野公郎助教授が慶応義塾大学に転出し、齊木崇人講師が神戸芸術工大に転出した。

技官(準研究員)の坂本一憲氏が千葉大学に転出(平成2年2月28日)、同じく準研究員の鎌田元弘技官が千葉工大に転出(平成2年3月31日)した。事務官の菊池秀子さんの社会工学系への異動に代り、串田紀子事務官が着任(平成元年4月1日)した。

3. 入学および修了の状況

平成元年度入学者は103名であり、外国人留学生6名、有職者6名であった。平成2年3月課程修了者は94名であった。

4. 研究科プロジェクト

継続2件、新規3件のプロジェクトを実施した。

平成元年度 環境科学研究科プロジェクト研究計画一覧

研究課題	研究組織	配分額	備考
アジアにおける都市居住環境改善に内在する社会システム(継続)	石見* 岩崎 日端	80万円	63年度80万円
環境科学における安定同位体の利用に関する基礎的研究(新規)	田瀬* 古藤田, 森下 前田	80万円	
熱帯の問題土地帯における植生回復に関する環境化学的アプローチ(継続)	久島* 石塚, 大羽 臼井, 東	80万円	63年度80万円
霞ヶ浦水質浄化の動的的最適対策(新規)	河野* 藤木, 安田, 吉川 中村, 北畠, 森島	60万円	
白山山塊における資源利用と環境保全に関する社会生態学的追跡評価(新規)	佐藤* 糸賀, 天田 安仁屋	60万円	

*代表者

5. 教官の海外出張・研修旅行

表-12に示す。

平成元年4月～2年3月

表-12 教官の海外出張・研修旅行

氏名	学系	出張期間	渡航目的	出張先
河野 博忠	社会工学系	1. 4.15～ 4.20	国際安全保障協議会出席	アメリカ合衆国
黒川 洸	社会工学系	1. 5.16～ 5.22	国際住宅都市計画連合理事会出席	ユーゴスラビア
前川 孝昭	農林工学系	1. 6. 4～ 6.17	シンポジウム出席	アメリカ合衆国
国府田悦男	応用生物化学系	1. 6.16～2. 4.15	生体機能材料研究	アメリカ合衆国
小泉 允園	社会工学系	1. 6.12～ 6.15	ニュータウン開発の比較研究	大韓民国
川手 昭二	社会工学系	1. 6.12～ 6.15	ニュータウン開発の比較研究	大韓民国
佐藤 洋平	社会工学系	1. 6.23～ 7. 1	洪水に伴う農業への影響調査	バングラディッシュ共和国
天田 高白	農林工学系	1. 7.26～ 8. 6	シンポジウム出席	インドネシア共和国
河野 博忠	社会工学系	1. 7. 1～ 7. 8	国際地域科学学会出席	シンガポール
小林 守	地球科学系	1. 7.17～ 8.27	日米加国共同国際プロジェクトに参加	アメリカ合衆国
関 李紀	化学系	1. 7.10～ 8.14	アイソトープ製造技術に関する共同研究	ドイツ連邦共和国
松本 宏	応用生物化学系	1. 8. 1～2. 5.31	除草剤の作用機構の研究	アメリカ合衆国
熊谷 良雄	社会工学系	1. 7.31～3. 7.30	ペルー国地震防災センターに派遣	ペルー
鶴野 公郎	社会工学系	1. 7.15～ 9.16	コンピュータ統合製造に関する国際会議出席	フランス共和国他
臼井 健二	応用生物化学系	1. 8.20～ 8.26	アジア・太平洋雑草学会出席	大韓民国
石塚 皓造	応用生物化学系	1. 8.20～ 8.26	アジア・太平洋雑草学会出席	大韓民国
東 照雄	応用生物化学系	1. 8. 6～ 8.22	土壌試料採取のため	フィリピン共和国
河野 博忠	社会工学系	1. 8.23～ 9. 3	国際地域科学学会ヨーロッパ大会出席	オランダ王国
森下 豊昭	応用生物化学系	1. 9.15～ 9.30	国際セミナー出席	フランス共和国
臼井 健二	応用生物化学系	1. 9. 4～ 9.13	アミノ酸生合成阻害剤に関する会議出席	連合王国
松本 栄次	地球科学系	1. 8. 7～ 9.14	太平洋学術会議国際集会出席	チリ共和国
高野 健三	生物科学系	1. 9.17～ 9.27	JECSS ワークショップ参加	大韓民国
久島 繁	応用生物化学系	1.11. 1～ 11.18	組織培養の共同研究	フィリピン共和国

氏名	学系	出張期間	渡航目的	出張先
梶 秀樹	社会工学系	1.10.1～ 10.10	ジョクジャカルタ大都市圏の研究調査	インドネシア共和国
前川 孝昭	農林工学系	1.10.25～ 11.12	研究集会出席	アメリカ合衆国
安仁屋政武	地球科学系	1.10.4～ 12.4	氷河の調査	中華人民共和国
石見 利勝	社会工学系	1.11.19～ 12.3	第三国研修講師	インドネシア共和国
石田 東生	社会工学系	1.11.11～ 11.26	交通安全、交通事故防止の研究	デンマーク他
梶 秀樹	社会工学系	1.10.23～ 10.28	日韓ジョイントワークショップ出席	大韓民国
谷村 秀彦	社会工学系	1.10.21～ 10.25	日韓ジョイントワークショップ出席	大韓民国
岩崎 駿介	社会工学系	1.10.31～ 11.5	上海会議出席	中華人民共和国
糸賀 黎	農林学系	1.11.17～ 12.4	韓国農村集落の調査	大韓民国
松本 栄次	地球科学系	1.11.25～ 12.23	タンザニア内陸地域における地下水の研究	タンザニア連合共和国
河野 博忠	社会工学系	1.11.9～ 11.14	国際地域学会北米大会出席	アメリカ合衆国
吉川 博也	社会工学系	1.11.19～ 11.24	中日工程技術検討会出席	台湾
石田 東生	社会工学系	1.12.10～ 12.16	マニラの交通状況調査	フィリピン共和国
日端 康雄	社会工学系	1.11.26～ 12.11	地域活性化政策に関する研究	ドイツ連邦共和国他
吉川 博也	社会工学系	1.11.27～ 12.3	国境貿易促進に関する調査	中華人民共和国
谷村 秀彦	社会工学系	1.12.1～ 12.4	大学病院に関する共同研究	大韓民国
岩崎 駿介	社会工学系	1.11.25～ 12.5	タイ農村居住状況の調査	タイ王国
梶 秀樹	社会工学系	1.11.26～ 12.1	ロマプリータ地震の調査	アメリカ合衆国
天田 高白	農林工学系	2.1.7～ 1.14	砂防工学に関する研究討論	台湾
久島 繁	応用生物化学系	2.1.6～ 1.13	組織培養の共同研究	マレーシア
佐藤 洋平	社会工学系	2.1.26～ 2.3	国際会議出席	バングラディッシュ共和国
石塚 皓造	応用生物化学系	2.1.18～ 1.30	日本留学フェアの参加	インドネシア共和国他
石田 東生	社会工学系	2.2.18～ 3.3	都市計画・交通状況の調査	大韓民国
関 李紀	化学系	2.1.27～ 2.4	国際会議出席	インド
糸賀 黎	農林学系	2.2.22～ 3.3	日韓の集落調査	大韓民国
古藤田一雄	地球科学系	2.3.1～ 3.25	中国・甘粛省の砂漠の日中共同観測	中華人民共和国
石見 利勝	社会工学系	2.3.19～ 4.3	居住問題の実状調査	パラグアイ共和国他
田島 学	社会工学系	2.2.28～ 3.2	景観表現システムの設計に関する検討会出席	台湾

氏 名	学 系	出 張 期 間	渡 航 目 的	出 張 先
鵜野 公郎	社会工学系	2. 2.25～ 3.31	技術革新に関するプロジェクト 共同研究	オーストリア共和 国
北畠 能房	社会工学系	2. 2.28～ 3. 7	モスクワ会議出席	ソビエト社会主義 共和国連邦
黒川 洸	社会工学系	2. 3.11～ 3.18	都市施設計画に関する調査	フィリピン共和国
甲斐 憲次	地球科学系	2. 3. 1～ 3.25	中国・甘肅省の砂漠の日中共同 観測	中華人民共和国
谷村 秀彦	社会工学系	2. 3.30～ 4. 3	観光	大韓民国
小泉 允閑	社会工学系	2. 3.25～ 3.31	韓国の宅地開発制度に関する調 査	大韓民国